

Corporate Data

会社概要 (2019年2月28日現在)

商 号 株式会社竹内製作所
 (英文社名) TAKEUCHI MFG. CO., LTD.
 本 社 〒389-0605
 長野県埴科郡坂城町上平205番地
 設立年月日 1963年8月21日
 資 本 金 3,632百万円
 事 業 内 容 建設機械の開発、製造及び販売
 従 業 員 数 734名 (連結)

● 役員の状況 (2019年5月29日現在)

代表取締役会長	竹内 明雄
代表取締役社長	竹内 敏也
取締役	渡辺 孝彦
取締役	Clay Eubanks
取締役	小林 修
社外取締役 (常勤監査等委員)	草間 稔
社外取締役 (監査等委員)	小林 明彦
社外取締役 (監査等委員)	岩渕 道男

● 主要な工場及び営業所

工 場	本社工場	長野県埴科郡
	戸倉工場	長野県千曲市
営業所	東京営業所	東京都港区

● ホームページ <http://www.takeuchi-mfg.co.jp/>



Stock Information

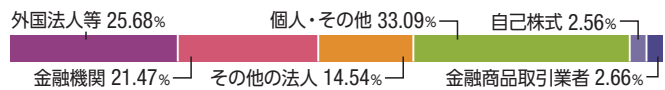
株式の状況 (2019年2月28日現在)

発行可能株式総数 138,000,000株 単元株式数 100株
 発行済株式の総数 48,999,000株 株主数 11,186名
 大株主

株 主 名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社	5,234	10.96
竹内 敏也	3,895	8.15
公益財団法人TAKEUCHI育英奨学会	2,702	5.65
日本マスタートラスト信託銀行株式会社	2,163	4.53
東京中小企業投資育成株式会社	1,803	3.77
株式会社テイク	1,800	3.77
竹内 好敏	1,500	3.14
株式会社八十二銀行	1,440	3.01
竹内 民子	1,440	3.01
STATE STREET CLIENT OMNIBUS ACCOUNT OM44	1,353	2.83

※持株比率は自己株式 (1,253,858株) を控除して計算しております。

株式分布状況 (所有者別)



株主メモ

事業年度	毎年3月1日から翌年2月末日まで
定時株主総会	毎年5月
基準日	毎年2月末日 その他必要あるときは、あらかじめ公告いたします。
配当金受領株主確定日	毎年2月末日 (中間配当を実施するときは8月31日)
公告方法	電子公告により、当社ホームページに掲載いたします。 http://www.takeuchi-mfg.co.jp/ ただし、事故その他のやむを得ない事由により電子公告ができないときは、日本経済新聞に掲載する方法により行います。
株主名簿管理人及び特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
(同連絡先)	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 東京都府中市日鋼町1-1 TEL 0120-232-711 (フリーダイヤル)
(同郵送先)	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号

- (ご注意)
- 株券電子化に伴い、株主様の住所変更その他各種手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関 (証券会社等) で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人 (三菱UFJ信託銀行) ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
 - 特別口座に記録された株式に関する各種手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関 (三菱UFJ信託銀行) にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
 - 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。



証券コード 6432



世界初から世界の TAKEUCHIへ

TAKEUCHI: From World First to World Leader

第57期 報告書

2018年3月1日から2019年2月28日まで

株式会社 竹内製作所

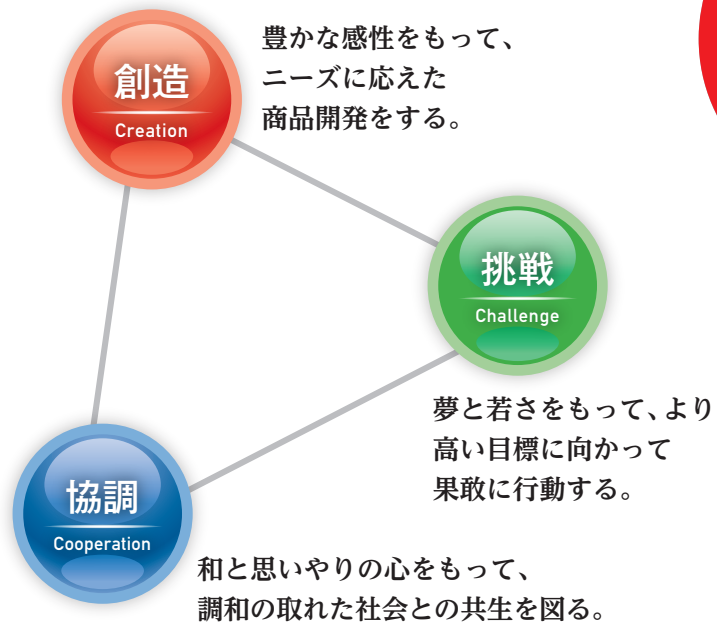
機種名 TB250-2

企業理念

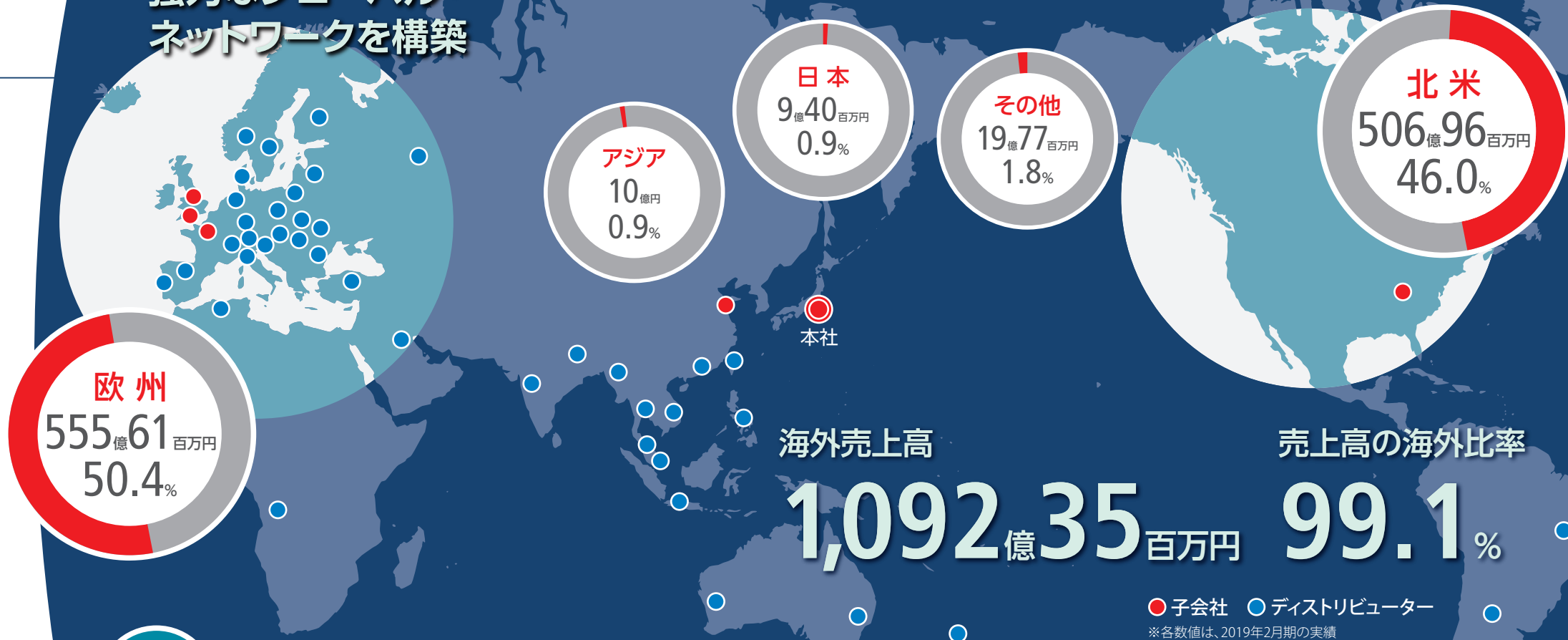
世界初から世界の TAKEUCHIへ

- ・私たちは、創造、挑戦、協調の精神で切磋琢磨し、**TAKEUCHI**のものづくりを追求します。
- ・グローバルな視野と感覚をもって、お客さまに信頼される商品とサービスを提供します。
- ・一人ひとりがもつ力を活かし、地球にやさしく、豊かな社会の実現に貢献します。

社 是



世界市場の 期待に応える 強力なグローバル・ ネットワークを構築



当社は、世界で初めてミニショベルおよびクローラーローダーを開発し、他社に先駆けてグローバル展開を行ってまいりました。4つの海外子会社と、世界各国に構築されたディストリビューター網によって、一貫した販売とサービスを展開し、グローバルスタンダードとしての評価を揺るぎないものとしています。海外の現場からのニーズをつぶさに取り入れたマーケットインの製品開発にこだわり、高品質な製品を全世界に向けて提供しています。こうした当社の取り組みは、欧米で高く支持・評価されています。

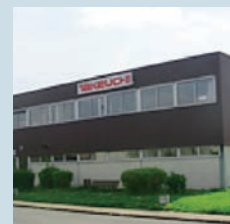
グローバル ネットワーク



英国
(販売子会社)

TAKEUCHI
MFG. (U.K.) LTD.

1996年設立



フランス
(販売子会社)

TAKEUCHI
FRANCE S.A.S.

2000年設立



中国
(生産・販売子会社)

竹内工程机械(青島)
有限公司

2005年設立



米国
(販売子会社)

TAKEUCHI
MFG. (U.S.), LTD.

1979年設立

※上記以外の地域における販売は、各国のディストリビューター（当社とディストリビューターシップ契約を締結した販売店）を通じて販売を行っております。



新たな経営体制のもとで
TAKEUCHI の強みを追求し
さらなる成長を目指してまいります

代表取締役会長
竹内 明雄



代表取締役社長
竹内 敏也

会長・社長就任のごあいさつ

株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

2019年5月29日付で、代表取締役会長に就任しました竹内明雄、ならびに代表取締役社長に就任しました竹内敏也でございます。

当社グループは、1963年の創業以来、建設機械市場において「ミニショベル」と「クローラーローダー」という新たなマーケットを切り拓き、常に世界のニーズに応えることで成長を遂げてまいりました。そしてこのたび、2019年2月期の決算におきまして、売上高が念願の1,000億円を達成しましたことから、これを契機に創業者から次世代の新たなトップにバトンタッチすることにより、新しい経営体制を敷くことといたしました。

当社グループの強みは、製品に対する市場評価の高さ

新社長 プロフィール

氏 名：竹内 敏也（たけうち としや）
生年月日：1963年1月9日
出身地：長野県
略 歴：1985年4月 当社入社
2004年5月 当社 取締役村上工場長
2008年5月 当社 取締役副社長
2019年5月 当社 代表取締役社長

にあります。「パワフル」かつ「耐久性」、「操作性」、「快適性」に秀でた当社製品は、その独自の付加価値の提供によって、高い市場シェアを実現しています。また、世界各国の市場ニーズに基づいた迅速な製品開発、製品リリース後のきめ細かなマイナーチェンジの提供、受注生産による多様なオーダーへの対応などによって、市場からは常に高い評価をいただいています。

新たな経営体制においても、これら当社グループの強みに一層の磨きをかけて、当社グループのさらなる成長発展を目指してまいります。株主の皆様におかれましては、変わらぬご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

2019年2月期の業績について

さて、2019年2月期の業績についてご報告します。当社グループの主力販売市場である米国および欧州では、米国の住宅需要は価格や金利の上昇により、需給の調整局面に入ったものの需要は依然として強く、欧州の住宅需要は良好な雇用・所得環境に支えられ、堅調に推移しました。また、両市場ともに道路、上下水道、ガスパ管などの生活インフラの老朽化によるメンテナンス工事が課題となっています。そのため、いずれの工事にも最適な当社製品に対する需要は、旺盛な状況が続いています。

景気の拡大が持続する北米市場において、当社製品の販売台数は、2018年1月に発売したクローラーローダーの新製品「TL6R（3.5トン）」の売れ行きが好調だったこともあり、前期比15.4%増加しました。その結果、北米における売上高は506億9千6百万円となり、前期比11.8%の増加となりました。

欧州では年度後半に景気の減速感が強まり、また、英国ではEU離脱に絡んだ先行きに対する不透明感が高まりました。こうした中でも、当社製品に対する需要は高い水準を維持し、欧州における販売台数は前期比20.0%増加しました。これは主に、2018年3月に発売したミニショベルの新製品「TB225（2.3トン）」の販売好調に加え、当社最重量の既存油圧ショベル「TB2150R（15トン：2017年5月発売）」の販売が拡大したことによります。その結果、欧州における売上高は555億6千1百万円となり、前期比27.8%の増加となりました。

以上の結果、2019年2月期の売上高は、過去最高となる1,101億7千5百万円（前期比16.8%増）となりました。利益面につきましては、原材料価格の上昇や運搬費の増加によって生じたコスト増を増収効果で吸収し、営業利益は154億1千1百万円（同9.0%増）、経常利益は154億9千6百万円（同10.4%増）となりました。親会社株主に帰属する当期純利益は、113億9千1百万円（同19.3%増）となり、過去最高益を更新しました。

2020年2月期の業績見通しについて

当社グループでは、第二次中期経営計画（2020年2月期～2022年2月期）を策定し、2019年3月よりスタートしました。その初年度となる2020年2月期の業績見通しにつきましては、米国、欧州ともに住宅需要は底堅く、生活インフラのメンテナンス工事は待たなしの状況で計画的かつ確実に実施される見通しで、当社製品に対する需要は増加していくものと予想しております。一方で、旺盛な需要に対して、買入部品の調達量が不足する見込みとなり、販売量を絞った業績予想となりました。

その結果、2020年2月期の売上高は、1,150億円（前期比4.4%増）となる見通しです。利益面につきましては、主要レートを総じて円高に設定したこと等により、営業利益140億円（同9.2%減）、経常利益140億円（同9.7%減）、親会社株主に帰属する当期純利益100億円（同12.2%減）となる見通しです。第二次中期経営計画では、調達力の強化を重点課題の一つに掲げ、新たな挑戦に取り組んでまいります。

第二次 中期経営計画 (2020年2月期～2022年2月期) が始動

前中期経営計画 (2017年2月期～2019年2月期) を振り返って

主要な取り組みと成果

課題1 市場開拓と顧客満足度の向上

成果 ▶欧米に経営資源を重点配置した販売網の拡充と質的向上が実現

課題2 開発・生産活動の改革

成果 ▶製品開発力の強化によって、3年間で8機種の販売を開始
▶生産能力の強化によって、年間生産台数（本社工場）が46%拡大（2016年2月期比）

課題3 コスト競争力と為替変動への対応力の向上

成果 ▶海外部品調達比率が30.1%に向上（2016年2月期は21.1%）

課題4 少数精鋭による効率的な業務運営

成果 ▶従業員1人当たりの売上高（単体）が、2.2億円に向上（2016年2月期は1.8億円）
▶従業員が意欲を持って働く筋肉質な企業体質を目指し、新・人事制度がスタート

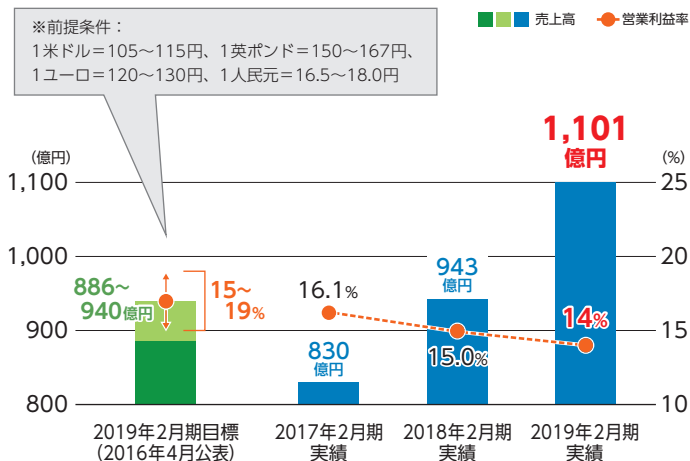
総括

▶売上高は、数値目標を上回りました。

前中期経営計画（2017年2月期～2019年2月期）においては、主力販売市場の米国と欧州に経営資源を重点配置した販売網の拡充と質的向上に取り組み、市場ニーズをつぶさに取り入れた新製品を市場投入するとともに、高まる受注量に先んじて生産能力の強化を推し進めました。その成果として、北米ではクローラーローダー、欧州ではミニショベルの販売が大きく躍進しました。

数値目標については、2019年2月期の売上高は1,101億円となり、本計画の3年間に於いて29.1%の増収を実現するとともに、目標を達成することができました。一方、営業利益率は、製造コスト増が想定以上となり14%に留まりました。また、買入部品の安定確保に大きな課題を残すこととなりました。

前中期経営計画の数値目標と3ヵ年の実績の推移



第二次中期経営計画 (2020年2月期～2022年2月期) について

スローガン 「新たな扉を開く」

- 連結売上高 1,000億円達成を通過点とした新たな挑戦
- 「世界初から世界の竹内へ」のこだわりの経営の堅持

重点施策

課題1 質的・量的に安定調達できる購買体制の構築

既存サプライヤーとの連携強化に取り組むとともに、新規サプライヤーをグローバルに開拓し、購買、開発、品質部門が連携して技術協力、品質監査・指導に取り組めます。

課題2 販売ネットワークの強化

i) 拠点開設

米国で保守トレーニング・センターを新設するとともに、倉庫を増築して保守パーツの供給体制を整える計画です。欧州でも保守パーツ・センターを新設する計画です。

ii) 情報システムの構築

情報通信機能を搭載した製品で稼働状況を把握し、顧客サポートの向上につなげます。また、サポート情報を販売ネットワーク全体で共有できる統合管理システムを導入し、保守レベルの向上を図ります。

課題3 開発力の強化

当社製品が満たすべき基準を明確化し、設計品質の維持・向上に取り組むとともに、環境にやさしい製品開発にも積極的に取り組んでまいります。

課題4 生産能力の強化

生産能力の強化は重要な経営課題です。2019年5月には中国製造子会社の工場増築が完了し、6月より稼働を開始する予定です。今後は、本社工場の生産能力の増強を図ります。

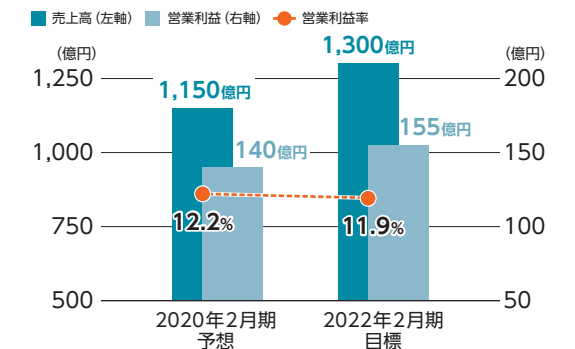
課題5 サステナブル（持続可能な）経営の推進

国連サミットで採択された“持続可能な開発目標（SDGs）”を念頭に、地球にやさしく豊かな社会の実現に貢献してまいります。

第二次中期経営計画 最終年度 (2022年2月期) の数値目標

売上高 1,300億円
営業利益 155億円 (営業利益率11.9%)
買入部品の海外調達比率 35%

※前提為替レート：1米ドル＝108.00円、1英ポンド＝140.00円、
1ユーロ＝122.00円、1人民元＝15.90円



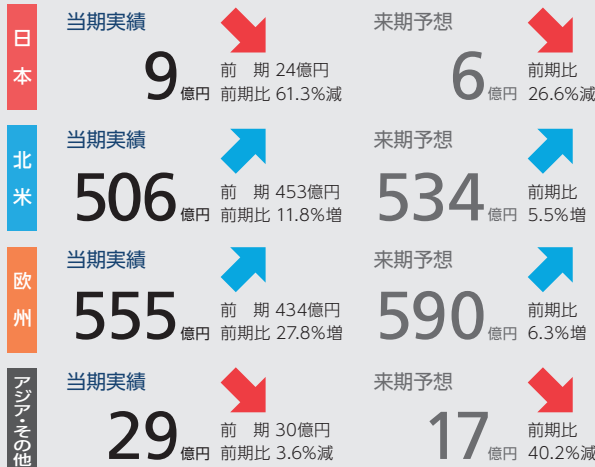
Consolidated Financial Highlight

連結財務ハイライト

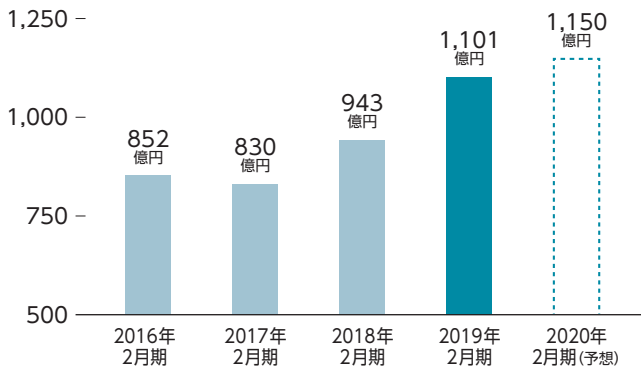
売上高



地域別売上高



売上高の推移 (5年間)



営業利益



経常利益



親会社株主に帰属する当期純利益



1株当たり配当金



Point 1 配当金について

2019年2月期の配当金につきましては、好調な業績を勘案して1株当たり45円を実施し、前期実績より9円の増配となりました。2020年2月期は、5円増配の50円を予定しております。

Point 2 2020年2月期業績予想の為替レートについて

来期の業績予想の前提となる為替レートについては総じて円高に設定し、1米ドル=108円、1英ポンド=140円、1ユーロ=122円、1人民元=15.9円としました。

連結業績及び財務データ

		2016年 2月期	2017年 2月期	2018年 2月期	2019年 2月期	前期比	
						増 減	増減率(%)
経営成績 (百万円)	売上高	85,218	83,000	94,342	110,175	15,833	16.8
	売上総利益	24,357	20,724	21,976	23,846	1,870	8.5
	営業利益	16,222	13,404	14,133	15,411	1,277	9.0
	経常利益	15,291	11,722	14,033	15,496	1,463	10.4
	親会社株主に 帰属する当期純利益	9,708	7,757	9,547	11,391	1,843	19.3
	設備投資額	3,821	1,018	1,073	2,225	1,152	107.3
	減価償却費	1,092	1,429	1,265	1,280	15	1.2
	研究開発費	771	769	804	1,050	246	30.6
財政状態 (百万円)	資産合計	77,216	83,085	91,799	104,045	12,245	13.3
	負債合計	22,172	23,005	23,692	26,864	3,172	13.4
	純資産合計	55,043	60,080	68,106	77,180	9,073	13.3
キャッシュ・ フロー (百万円)	営業活動による キャッシュ・フロー	12,275	6,823	10,406	8,421	△1,985	
	投資活動による キャッシュ・フロー	△4,011	△1,442	△1,326	△2,268	△941	
	財務活動による キャッシュ・フロー	△456	△3,066	△1,253	△1,715	△462	
	現金及び現金同等物の 期末残高	20,002	23,633	30,411	34,464	4,052	
1株当たり 情報 (円)	1株当たり当期純利益	198.14	162.07	200.20	238.83	38.63	
	1株当たり純資産	1,123.46	1,259.86	1,428.13	1,618.11	189.98	
	1株当たり配当金	22.00	26.00	36.00	45.00	9.00	
財務指標 (%)	ROE (自己資本当期純利益率)	19.2	13.5	14.9	15.7	0.8	
	ROA (総資産経常利益率)	21.3	14.6	16.0	15.8	△0.2	
	自己資本比率	71.3	72.3	74.2	74.2	0.0	
為替レート (円)*	円／米ドル	121.25	108.30	111.58	110.06	△1.52	
	円／英ポンド	184.99	145.32	146.80	145.91	△0.89	
	円／ユーロ	133.16	119.55	128.67	129.16	0.49	
	円／人民元	19.19	16.40	16.63	16.64	0.01	

※12ヶ月間の平均レートです。

業界最大級の展示会『bauma 2019』に出展

2019年4月8日～14日の7日間、ドイツ・ミュンヘンで開催された建設機械の世界3大展示会のひとつである「bauma 2019」に出展しました。開催地である欧州だけでなく、北米、南米、アジアからのお客様も多数来場され、連日大盛況となりました。

全23台の製品を展示した当社ブースの盛況ぶりは群を抜いており、多数のお客様が興味深く当社の製品群をご覧になっていました。今回の展示会の目玉は、新製品2機種のお披露目です。6.5トンの油圧ショベルの新製品「TB370」と1.9トンのバッテリー式ミニショベルの新製品「TB220e」は、特に多くの注目を浴びていました。



当社ブース



TB370



TB220e

「TB370」は、これまでのTB200番台のシリーズから外観、内装を一新し、次世代の**TAKEUCHI**製品にふさわしい先進性を備えた機械だとのご評価をいただきました。特に当社製品の特長として広く認知されている操作性の良さがさらに高まったとの声を多数いただきました。

「TB220e」は、展示会場で掘削のデモンストレーションを行い、排出ガスゼロと低騒音に加え、コンパクトなデザイン、エンジン車と変わらぬ性能、操作性を実現したとのご評価をいただきました。昨今、自動車業界を中心に電動化に向けた開発が日進月歩の勢いで進んでおり、建設機械業界にもその波が確実にやってくると考えています。当社は、他社に先駆けて9年前のbauma展でバッテリー式ミニショベルの試作機を展示した実績もあり、今回の「TB220e」に対する注目度は高かったと思われます。

お客様からは、先進の次世代機種の登場に発売を心待ちにする声が非常に多く、当社を大いにアピールできた展示会となりました。

排出ガス規制に適合したミニショベルを2機種発売

欧州ノンロード・エンジン第5次排出ガス規制（通称“EU Stage V”）に適合したミニショベルの新製品「TB235-2」（3.5トン）及び「TB250-2」（5.0トン）を2019年2月より販売開始しました。

新製品の主な特長

- 1 既存製品の「TB235」及び「TB250」の後継機種で、内外装のデザインを一新しました。
- 2 運転席の窓枠を改善することで運転席からの死角を減らし、安全性が向上しました。
- 3 エンジンや油圧機器の配置を見直したことにより、メンテナンスしやすくなりました。
- 4 アタッチメントを交換するたびに必要で、面倒だった作動油の流量調整をワンタッチでスムーズに行えるようになりました。

当社製品の強みである掘削力、耐久性、操作性はそのままに、欧州の排出ガス規制に適合した新製品により、今後もシェア拡大を図ってまいります。



TB235-2



TB250-2

EU Stage VIについて

欧州において、ノンロード移動機械（自動車ではない移動機械）に搭載されるエンジンに対する新しい排出ガス規制です。エンジン出力帯に応じ、2019年1月または2020年1月に規制が順次開始されます。これまでが第4次段階（Stage IV）であったことから、通称“EU Stage V”と呼ばれています。